

統合医療を支援するためのデザインとシステムの研究

はじめに

統合医療とは、通常の医療に加えて、補完代替医療も含め統合的に医療を推進し、健康増進を図ることです。統合医療への関心が高まってきている背景には、発現した症状に対する処方、施術といった従来の医療の限界に対する打開策としての期待と、個人に合わせた医療プログラムの作成やこれまで医療の範囲外であった健康増進のためのサービスとの組み合わせの提供、といった健康についての意識の高まりが考えられます。

当センターでは、「統合医療＝顧客(患者)中心」の観点から、空間や医療器具のデザインの重要性が、高まると考えています。そこで、どのようなデザインが望まれるかを検討するため、現状把握の調査として、京都地域において補完代替医療がどの程度取り込まれているかということと、予防医学に視点をいたメディカルフィットネスの施設について調査しました。また、一般の企業が、統合医療に対して今後どのような見通しがあるかをヒアリング調査しました。

調査結果

■京都市内の人の意識調査の結果

補完・代替医療が、年齢、収入、学歴等に関係なく広く利用されていることが示されました。しかしながら、利用の動機について見ると、具体的症状に対しての対応である場合が多く、リラクゼーションのような「ゆとり」「癒し」として補完・代替医療を施術することは少ないようです。したがって、潜在的な需要としてはかなりあるでしょうが、一般ユーザーにおける統合医療についての意識の高まりはこれからのようです。

■メディカルフィットネスの施設調査の結果

通常のフィットネスクラブと最も異なる点は、顧客層です。メディカルフィットネスを運営することによって、通常のフィットネスよりも顧客の固定化が強まります。これは、メディカルの部分は、医師の診断、処方が必要であり、係り付けの病院との連携を意味するためです。

また、空間についてはスポーツ施設としては、比較的落ち着いたインテリアであり、カラーイメージスケールのシック領域でまとめられていました。

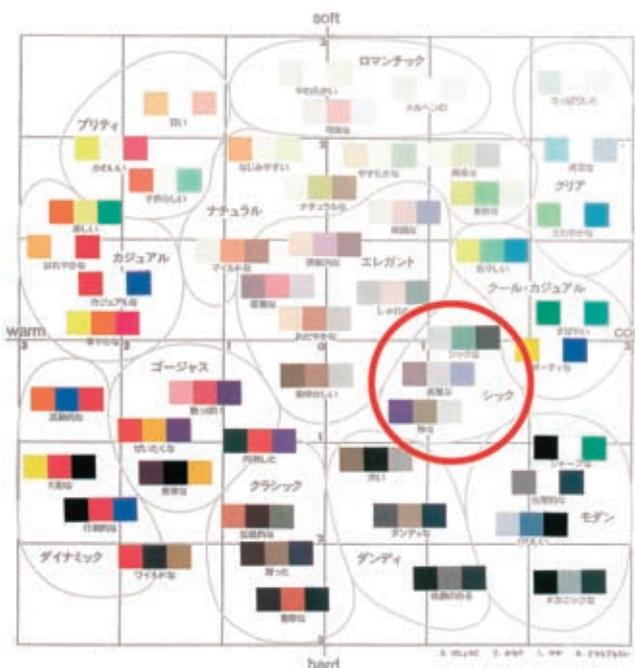
■企業ヒアリングの結果

医療機器メーカーについては、統合医療に対する認識はまだ薄いですが、医療機器販売等を通じ医療現場での意識の変化については敏感でした。高額な機器については、オプション設定で一台一台、かなりカスタマイズできる可能性もあるので、もっと情報がほしいとのことでした。

家庭用電気機械器具の大手メーカーでは、厳しい国際競争にさらされており、漠然とした新市場には取り組みにくいとのことでした。健康についての意識の高まりはありますが、それを統合医療と結び付けて商品化あるいは商品コンセプトに持っていくにはリスクが大きすぎるとのことでした。逆に市場規模が成熟していなくても開発に取り組める小回りのきく企業にビジネスチャンスはあると考えられます。

まとめ及び今後の展望

今後ますます医療的なサービスの選択の幅が広がり、医療とリラクゼーションの領域の融合化が図られると考えられます。統合医療については、支援機器開発、リラクゼーション商品開発の可能性が高まり、それらの製品は、これまでの医療機器以上に顧客満足を念頭に入れたデザインの開発が必要となってきます。当センターとしてもこのニーズに対応するため統合医療を支援するシステムとデザインについての研究会を開催していく予定です。



【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
企画連携課 情報・デザイン担当

TEL:075-315-9506 FAX:075-315-9497
E-mail:design@mtc.pref.kyoto.lg.jp